



町をつなぐ～新潟町と沼垂町 萬代橋と流作場

萬代橋の開通

沼垂町が現在地に定住した貞享元年(1684)頃、信濃川の川幅は700mほどもあり、対岸の新潟町との行き来は渡し舟によるものでした。**明治19年(1886)**「新潟日日新聞」社長の**内山信太郎**の架橋計画に許可があり、第四国立銀行(現在の第四銀行)頭取・**八木朋直**の資金援助を得て工事に着工、同年11月4日に長さ782m、幅6.4mの**初代「萬代橋」が開通**しました。**流作場五差路は、その東詰めのたもと**でした。

はじめは1人1銭の有料橋でしたが、**明治30年(1897)の沼垂駅開業**で利用者が急増、明治33年(1900)には県



初代萬代橋



二代目萬代橋の隣に新しく架けられた三代目萬代橋



初代・二代目萬代橋の架かっていった兩岸の位置にある「初代萬代橋橋跡の碑」



ワシらが架けたんじゃよ～



万代クロッシングに展示されている橋名板(本物)

●平成2年(1990)、万代シティで整備中の地下歩道「万代クロッシング」の工事現場から、初代と二代目萬代橋の橋脚の杭12本が、明治19年(1886)に打設されたままの状態で見られました。そのうち3本はそのまま残され、今も同じ場所に立ち続けています(写真左上)。

●「萬代橋」という名前は、ずっと先の世まで新潟の街の発展に尽くすことを願ってつけられたものです。橋の名板の文字は、元老院議員で大正天皇の伯父の柳原前光伯爵の書が基になっています。流作場五差路のポケットパークには、そのレプリカが展示されています(写真下:F)。

当時の汽車は、「あま太郎」の前を走って今の弁天公園の場所まで走っていたんですね。たい焼きを食べながら見てみよう!



流作場五差路の歩道橋から見た萬代橋方面



手前が流作場五差路のポケットパーク。萬代橋の名板レプリカと案内板があります。交差点を挟んだ向こうが万代町通

つながる町～「万代町通」

明治19年(1886)の萬代橋開通後、橋と沼垂町を結ぶ長さ650mの県道が造成され**新道**と呼ばれました。**明治30年(1897)**、沼垂町の竜が島に北越鉄道(後の信越線)**沼垂駅が開業**し、さらに**37年(1904)**鉄道が延びて**流作場**(現在の弁天公園付近)に**新潟駅が開業**すると、新潟駅と沼垂駅を結ぶ**新道**には多くの商店が建ち並ぶようになって、「**万代町通**」と呼ばれるようになりました。また、新潟市から萬代橋を渡った先の、東に**万代町通**、

西に**新潟駅前通**となる交差点は**流作場三差路**(現在の**流作場五差路**)と呼ばれるようになりました。

鉄道の開通により、竜が島や山の下に石油精製・製紙などの大工場が建設されて竜が島に近代的な埠頭の建設計画がたてられ、沼垂と新潟の合併も進められます。**大正3年(1914)新潟町と沼垂町が合併**。**流作場新田は流作場**に改称され、**大正15年(1926・12月に昭和改元)**に竜が島に**県営の埠頭が完成**し、竜が島周辺は新たな新開地として急激な変貌を遂げていきます。



新潟駅 topic!

明治30年(1897)の沼垂駅開業により周辺はにぎわいを増して、沼垂四ツ角周辺は「沼垂銀座」と呼ばれるほどでした。**明治37年(1904)に新潟駅が開業**すると新潟駅前も新開地となります。大正・昭和期を通じて新潟市の戸数、人口は増大をしていきます。中でも新しい工場ができた沼垂・山の下や**流作場**は、交通の便が良くなったこともあって、多くの人が移り住み、

流作場では戦前に万代町などの通称町名が生まれていました。正式な町名が誕生したのは、昭和35年(1960)と昭和43年(1968)に大規模な住居表示変更が実施されてからで、以降、一部を除いて**流作場**という地名は使われなくなりました。現在は五叉路の歩道橋、水島町の保育園に**流作場**の名前を見ることができます。



旧新潟駅(停車場)開業以来の駅舎



昭和10年に改築された旧新潟駅駅舎



現在は弁天公園



昭和12年(1937)頃に描かれた<日本大博覧会事務局「新潟島瞰図」吉田初三郎画>



境内に設置してある新潟市のお宝解説板に詳しい説明が書いてあるよ!



境内に設置してある新潟市のお宝解説板に詳しい説明が書いてあるよ!

三社まつりでは、神輿とともに天狗さまが地域をめぐり歩きます。時代は変わっても、いまでも変わらぬ流作場の守り神なのです



ツツガ虫除けの神として弁財天を祀った「石宮神社」。当初は今の新潟駅南側にありました。昭和30年に三社神社の境内に移設され、55年に新築竣工し正式に石宮神社となりました



三社神社(中央区三和町)

「**三社神社**」は、**安倍玄昶**が流作場の鎮守として**延享4年(1747)**に創建し、最初は「神明宮」と呼ばれていました。その後、数度の川欠けにより遷座して現在地に落ち着き、明治初期に「**三社神社**」と改称しました。境内には現新潟駅の近くから移された「**石宮神社**」や歴史的な碑などがたくさんあります。



左:明治11年(1878)、明治天皇巡幸の際、安倍家で休んだことを記念した石碑/右:昭和初期まで旧新潟ホテル付近にあったと伝えられている嘉永7年(1854・11月に安政改元)の道標



万代町通境界



いい路地が続く 天明町界隈ですニャ



万代町通は、戦争中に道路の南側が拡幅されましたが北側は手つかずなので、古い建物がいくつか残されています

